

Dye-Charge OIL-CHARGE 取扱説明書

ダイ・チャージ オイルチャージ

〈カーエアコン 1234yf システム専用 ガス漏れ検知用 エアゾールオイル缶〉

蛍光剤入りエアゾールオイル缶

エアゾールオイル缶

注入ホース
(オプション品)

MB-DC1-YF (PAG)

MB-OC1-YF (PAG)

LL-400-YF01 (PAG)

MB-DC1-YF/P (POE)

MB-OC1-YF/P (POE)

LL-400-YF02/P (POE)

Dye-charge に入っているトレーサーラインの蛍光剤は、1234yf / PAG・POE A/C システムにおけるリーク検知用の UV 蛍光剤として、安定性・互換性ととも、SAE(Society of Automotive Engineers) 規格 J2297 に適合、またはそれ以上の品質を有しておりますので、安全にご使用いただけます。またすべての作業中において、紫外線から目を守る保護メガネ (TP9940) を着用してください。



注意

蛍光式リーク検知を効果的に利用するためには、コンプレッサを十分に稼働させることが必要です。

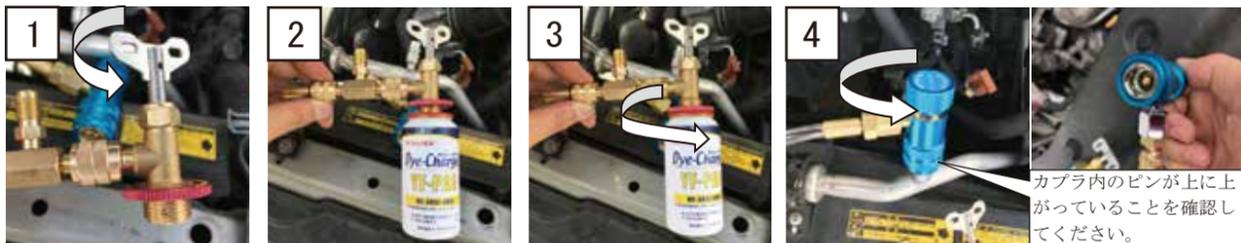
冷媒が不足しているようであれば、冷媒を補充してください。

また、缶型の蛍光剤を注入する際はホース内残存を極力抑えるため、専用の注入ホース (LL-400-YF01・LL-400-YF02/P) のご使用をお勧めします。

■ 注意事項 この説明書の用途以外の使用はしないでください。

- ・破裂する恐れがありますので、直射日光のあたる場所や 40℃以上の場所に置かないでください。
- ・引火性がありますので、火気に近づけないでください。
- ・決して服用しないでください。万が一飲み込んだ場合、直ちに吐かせ医師の診断を受けてください。
- ・作業中、誤ってエアコンシステム内の液が皮膚や顔などについた場合、直ちに水で十分洗浄し、異常がある場合は医師の診断を受けてください。
- ・子どもの手の届かない場所に保管してください。
- ・保護メガネ (ゴーグル) を必ず着用してください。
- ・廃棄の際は中身を使い切り、火の気のない戸外でガスを完全に抜いてから捨ててください。

■ 注入方法 ※基本的には通常のカスタマーサービスと同じです。



1. 注入ホース (※注 1) の缶切りバルブを反時計回りに最後まで回し、缶切りバルブの針を上まであげてください。
2. 注入ホースにエアゾール缶をセットします。
3. 缶切りバルブのリング部分もエアゾール缶に密着するように回し、確実に締めてください。
4. カプラのダイヤルを反時計回り (CLOSED の方向) に最後まで回し切り、内部のピンが上まで上がりカプラが閉じられたことを確認してください。車両の低圧側サービスポートにカプラを接続し、ダイヤルを時計回り (OPEN の方向) に回し、車両側の冷媒をホース内に満たします。

※伝導ベルトがありますので、巻き込まれないようご注意ください。



5. エアページバルブを 2～3 回押すと、ホース内のエア抜きが完了します。
6. エンジンをかけ、最低温度・最大風量にして、エアコンを稼働させてください。
7. 缶切りバルブを時計回りに回し、エアゾール缶に穴を開けます。
8. エアゾール缶を逆さまにし、反時計回りに缶切りバルブを回すとエアゾール缶内のガスが出てきます。缶内のガス圧で蛍光剤が押し込まれ、数秒で蛍光剤の注入が完了します。
9. ガスが空になったら、低圧側のカプラのダイヤルを反時計回り (CLOSED の方向) に最後まで回し切り、カプラにウエスをかぶせてはずしてください。

※カプラを低圧ポートからはずすとき、万が一注入した蛍光剤が飛び散ったときは市販のパーツクリーナーなどですばやく除去しウエスなどで拭き取ってください。

※1. 注入ホース カーエアコン種類に応じたホースをお使いください。

- ・1234yf PAG 専用注入ホースセット LL-400-YF01
- ・1234yf POE 専用注入ホースセット LL-400-YF02/P

■ リーク箇所検知方法

1. 蛍光剤を循環させるため、少なくとも 10～30 分間エアコンを作動させてください。
 2. エンジンを切って、リークの可能性がある箇所をトレーサーラインの紫外線ランプを照射し、あざやかな黄緑色に発光するリーク箇所を発見してください。このとき必ず保護メガネ (TP-9940) をかけてください。
 3. 大きなリーク箇所はすぐに発見できますが、スローリークの場合は、24～48 時間作動させた後、検知作業を行ってください。
 4. リーク箇所を修理した後は、蛍光剤専用クリーナーか、市販のパーツクリーナーで修理箇所の蛍光剤を除去してください。蛍光剤が残っていると、次回検査の時に誤検知につながります。
 5. なお蛍光剤注入後、コンプレッサーオイルを交換する必要はありません。トレーサーラインの蛍光剤は、オイルを交換しない限り、システム内を安全に循環しています。
- 同封の「注入済ラベル」に必要事項を記入後、ボンネット内に貼ってください。その車で再度リークが発生した場合は、紫外線ランプを照射するだけでリーク検知が可能です。

製造販売元：

MOBILY

株式会社MOBILY
630-0101
奈良県生駒市高山町5655